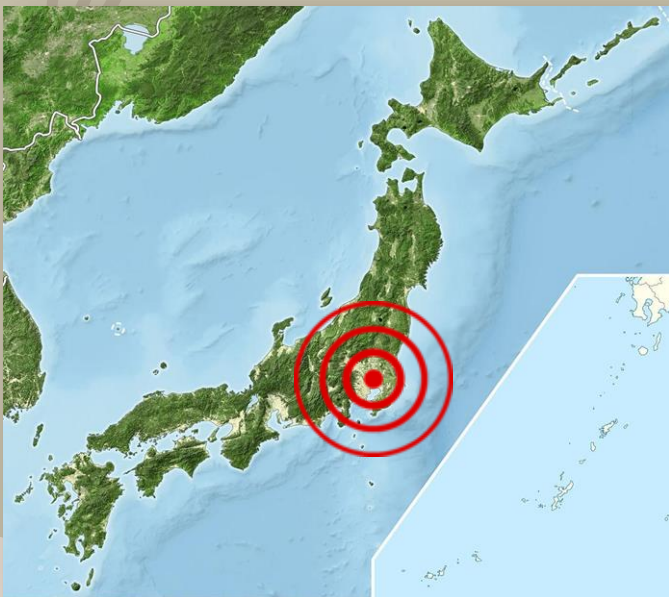


下馬地域住民の首都直下地震に対する 備えと意識から見る地域防災の課題



2025年2月11日
「地域交流ラボ」オープン・カンファレンス〈成果報告会〉
日本大学危機管理学部
宮脇ゼミナール7期生
横井隆平・小野日暉

町会の現状について
どのように考えていますか？



本日の流れ

1. 研究目的

- ・ 下馬地区の特徴

2. 先行研究・調査

3. 研究方法

- ・ ヒアリング調査
- ・ アンケート調査

4. 予想結果

5. ヒアリング調査内容

6. アンケート調査結果

7. 考察



1.1 研究目的

甚大な被害が予想される**首都直下地震**の発生確率が高まり、**少子高齢化**の一途をたどっている。

発災時に共助の主体となる**町会**は多くの問題を抱えている。

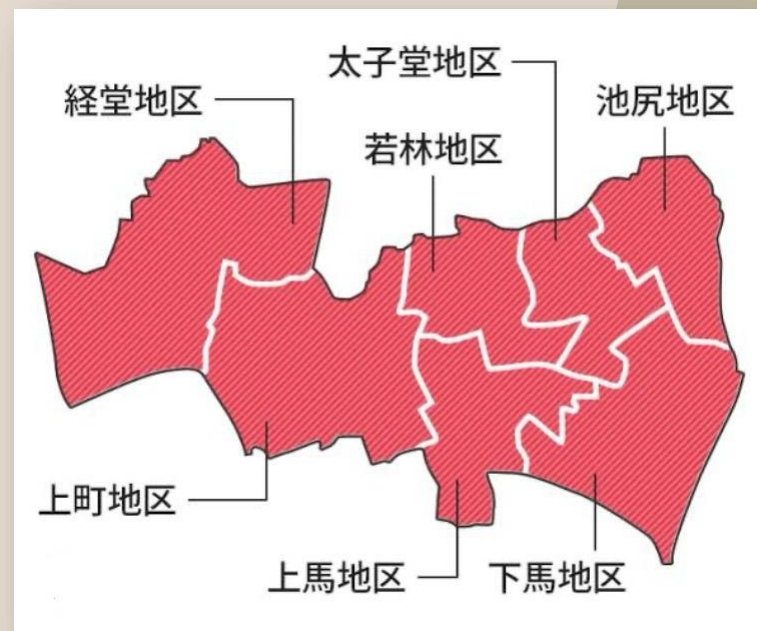
こうした状況で、**町会**はどのような問題を抱え、背景にどのような現状があるのだろうか。

また、**地域住民**は地震災害に対しどのような認識を持ち、どのような行動をしているのだろうか。

1.2 下馬地区の特徴

- 下馬地区の人口
→ **43,184人**（高齢者**9,003人**）
（2025年1/1調査結果）

- 町会
→ 下馬で6町会、野沢で4町会 計**10町会**
- 下馬地区の町会加入率は約**75.7%**



世田谷区ホームページより引用

2.1 先行研究・調査

「町会・自治会活動に関する調査報告書」 （令和6年4月）
東京都生活文化スポーツ局

《調査》

- ・ 近所付き合い、自治会加入の有無
- ・ 活動内容の認知、頻度 など

《結果》

- ・ 町会活動の問題点

→ 「若者や仕事を持つ人が参加しにくい」
「当番などがあり、活動への負担感が大きい」

2.2 先行研究・調査

「地域コミュニティ活性化のためにとりうる方策(葛飾区提案)」
(令和2年度) 特別区長会調査研究機構

《調査》特別区・町会・自治会への調査

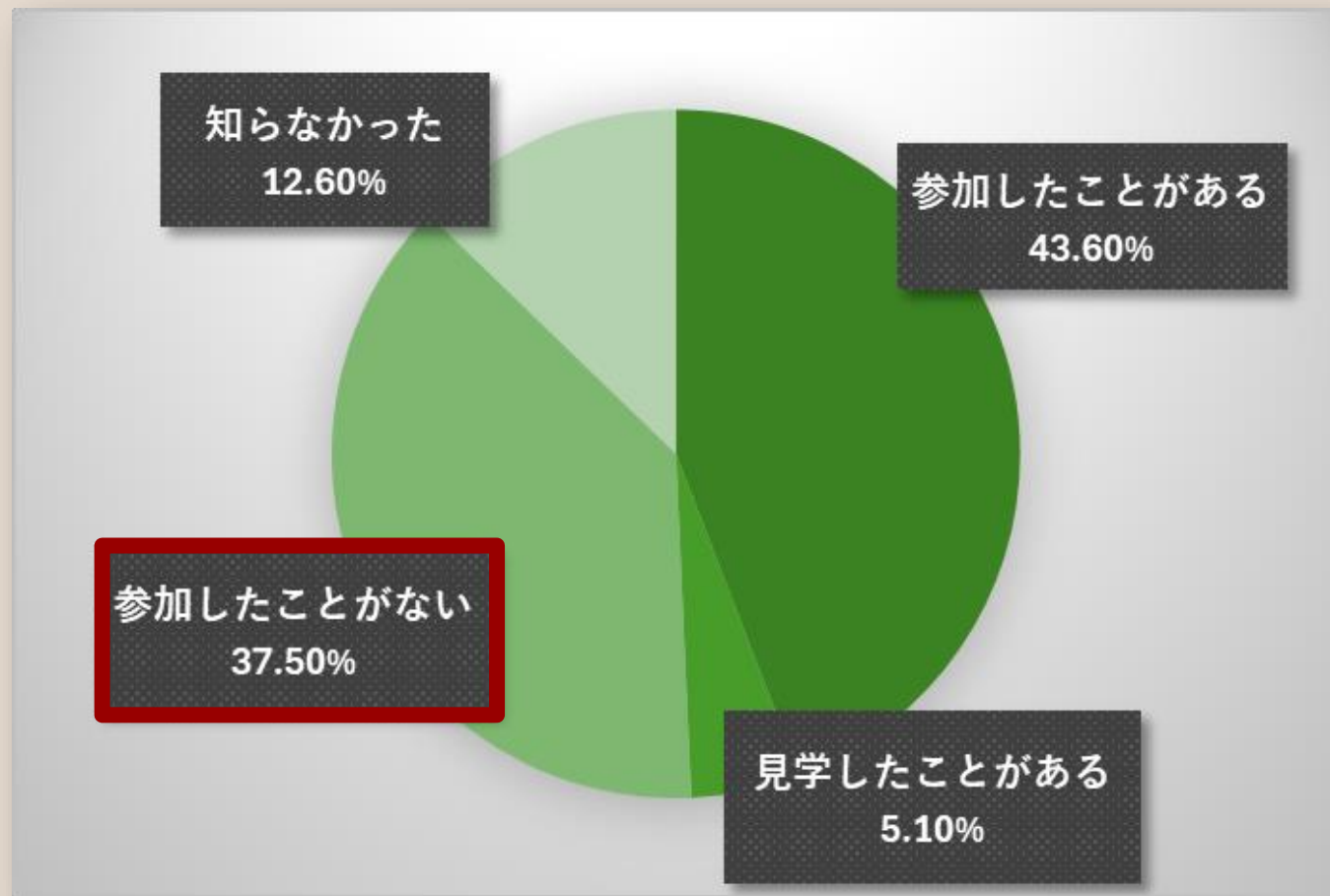
- ・町会が抱える問題
- ・町会加入率低下の現状 など

《内容》

- ・町会が抱える問題
- **新規住民の加入、活動への参加度、役員の固定化・高齢化**
- ・世代間交流、世代交代の必要性

2.3 先行研究・調査

「防災に関する世論調査」（令和4年9月調査）内閣府世論調査

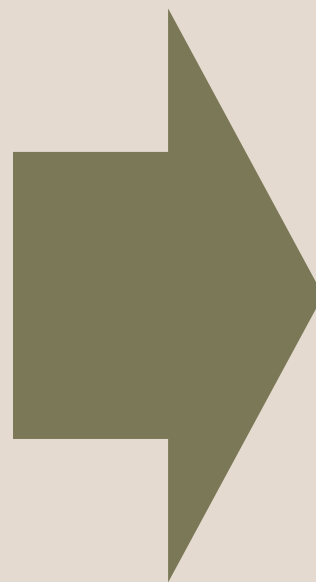


防災に関する世論調査より作成

「防災訓練への参加または見学の有無」

3.1 研究方法

町会の現状と住民の現状を突き合わせ、問題解決の一助となる解決案を模索する。



《自治会》

ヒアリング調査を通して自治会の現状と抱える問題を明らかにする。

《地域住民》

アンケート調査を通して近所付き合いなどの現状を明らかにする。

3.2 ヒアリング調査

- 目的

→町会の現状と抱える問題を明らかにするため

- 対象町会

→下馬2丁目北町会・野沢1丁目明朗会
野沢3丁目町会

- 調査日

→2024年9月4日（水）

3.2 ヒアリング調査

《町会に対するヒアリング調査》

- ・ 町会役員の人数と年齢構成
- ・ 町会が抱える問題
- ・ 問題に対する取り組み
- ・ 行事などの宣伝方法

など



3.3 アンケート調査（対面での配表調査）

- 目的

→地域住民の防災意識や地域コミュニティへの参加度を調査し、課題を明らかにするため

- 対象地域

→下馬2丁目20番～44番、野沢1丁目、野沢3丁目

- 期間

→2024年10月6日（日）～11月5日（火）

- 配布部数

→計**150部**

3.3 アンケート調査

《住民に対するアンケート調査》

- ・ 避難所などの把握
- ・ 飲料水や食料の備蓄
- ・ 近所付き合いの有無
- ・ **町会加入**の有無
- ・ **行事の参加**の有無
- ・ 町会の災害対策などの**情報**を知る媒体 など



4. 予想結果

- ・町会の行事について、参加していない人はその行事そのものを知らない可能性がある

→町会の情報発信と受け手のギャップ

- ・参加方法や実施していることを知らない人の中にも、参加希望者がいるのではないか

→より適切な情報発信により、参加が増える可能性

5. ヒアリング内容

1. 町会役員の人数と年齢構成

- ・ 各町会**10名から20名**の役員で構成
- ・ 役員の多くが**60歳以上**の高齢者
- ・ 60代は若手のくくりになる

役員の高齢化の現状

5. ヒアリング内容

2. 町会が抱える問題

- 避難行動要支援者のサポートも高齢化
- マンション世帯の町会加入率が低い
- 町会役員の高齢化と固定化
- 町会未加入世帯や若年層との接点創出
- 町会行事への参加者が固定化

世代交代、接点創出が急務

5. ヒアリング内容

3. 解決するための取り組み

- 盆踊りや花火大会、お祭りでの**接点創出**
- 役員のなり手不足の現状を説明
- 該当地域に**回覧、個別勧誘**
- インスタ開設→PTAの方の意見
- 各会の役割を分担する取り組み



5. ヒアリング内容

4. 行事などの宣伝媒体

- **掲示板・回覧板**に掲示
- 会議での決定事項を棟内清掃の参加住民に伝達
- 「**いちのいち**」(会員アプリ) 4町会で導入
- **チラシやポスター**の配布



いちのいちホームページより引用

6. アンケート調査結果

- 回収票数

93票

- 内訳

加入者 . . . 56票

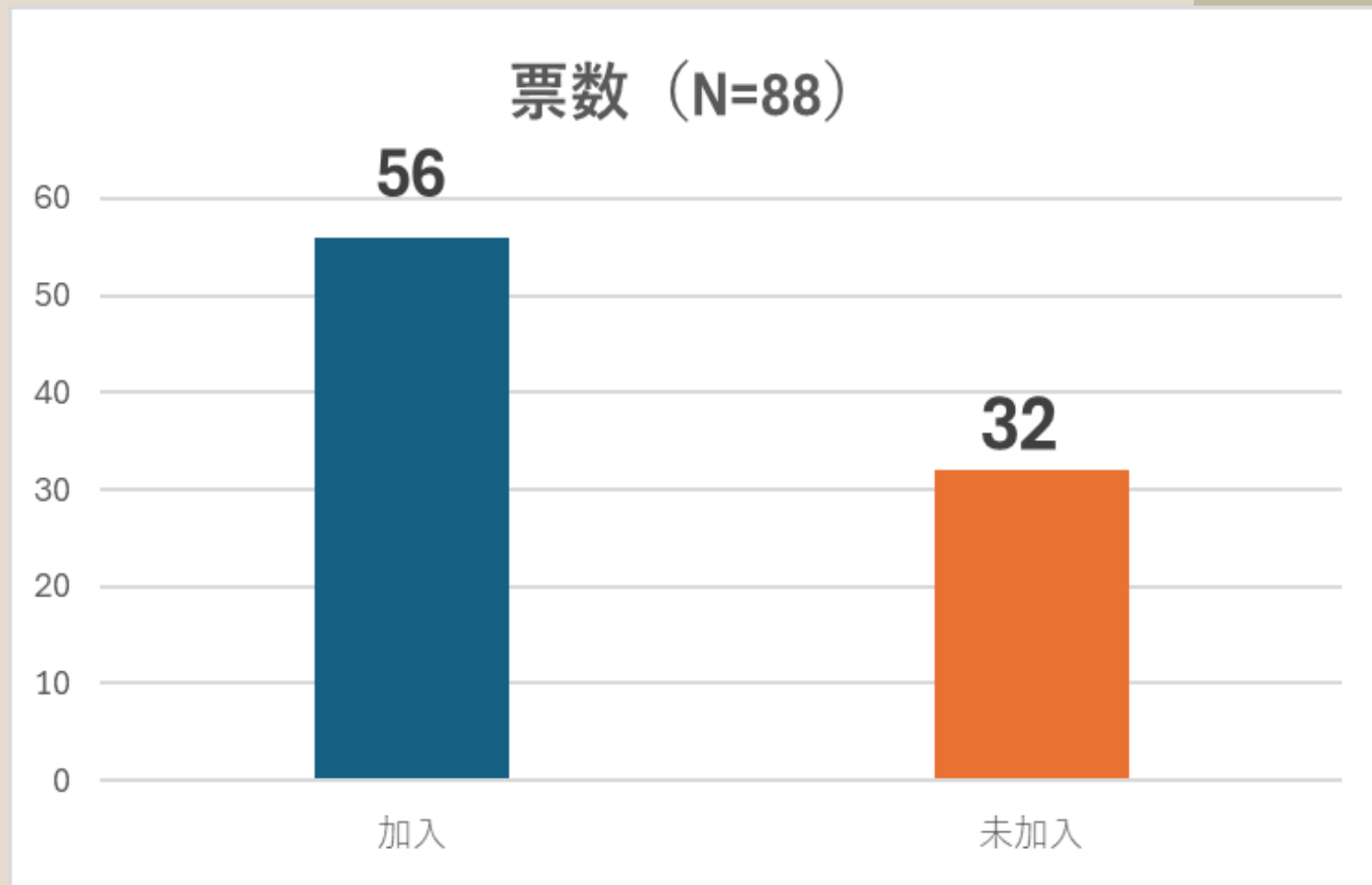
未加入者 . . . 32票

無効票 . . . 5票

- 平均年齢

加入者 . . . 67.4歳

未加入者 . . . 51.5歳



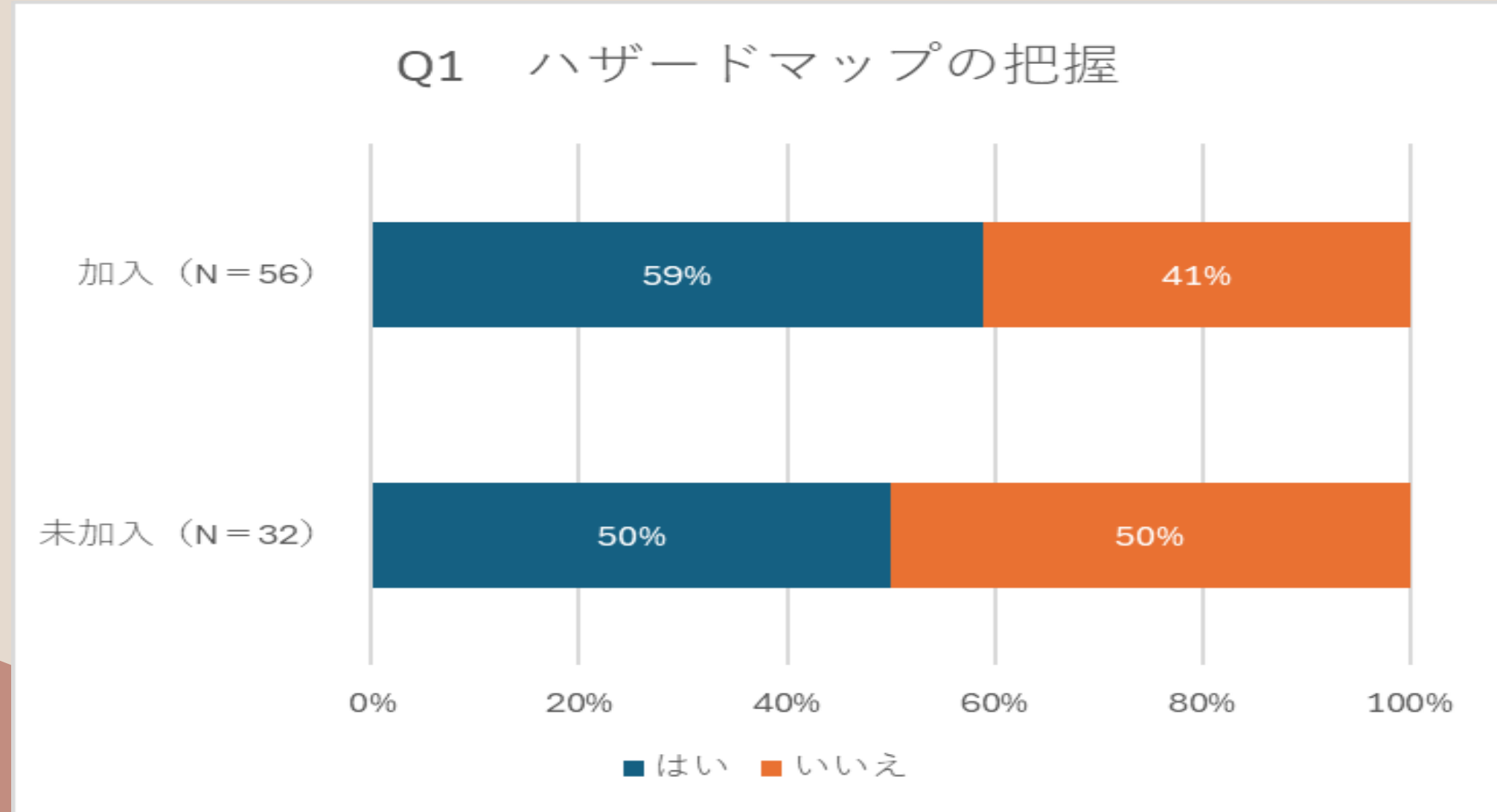
回答結果



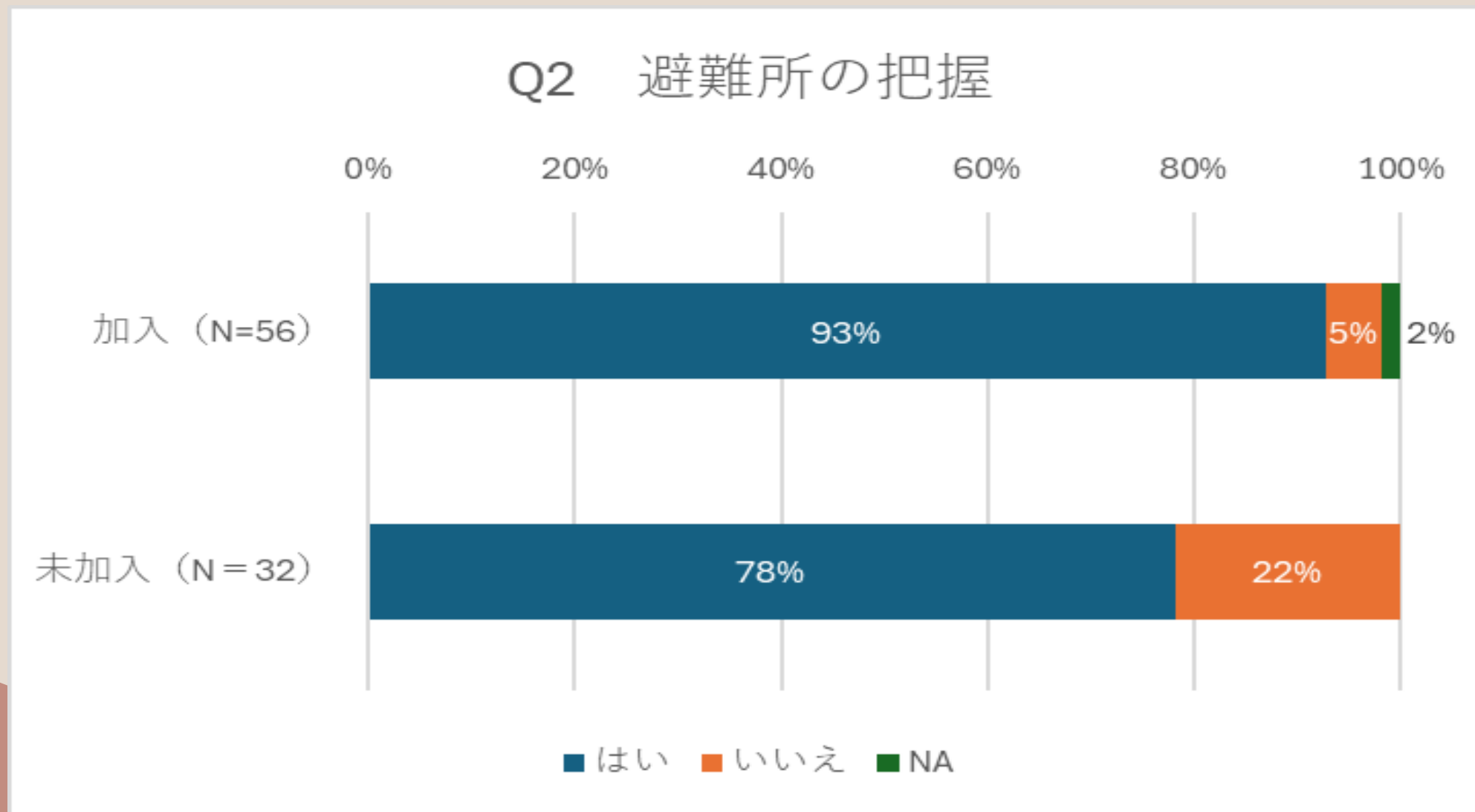
Q1 あなたが居住する地域のハザードマップを把握していますか。

ア.はい

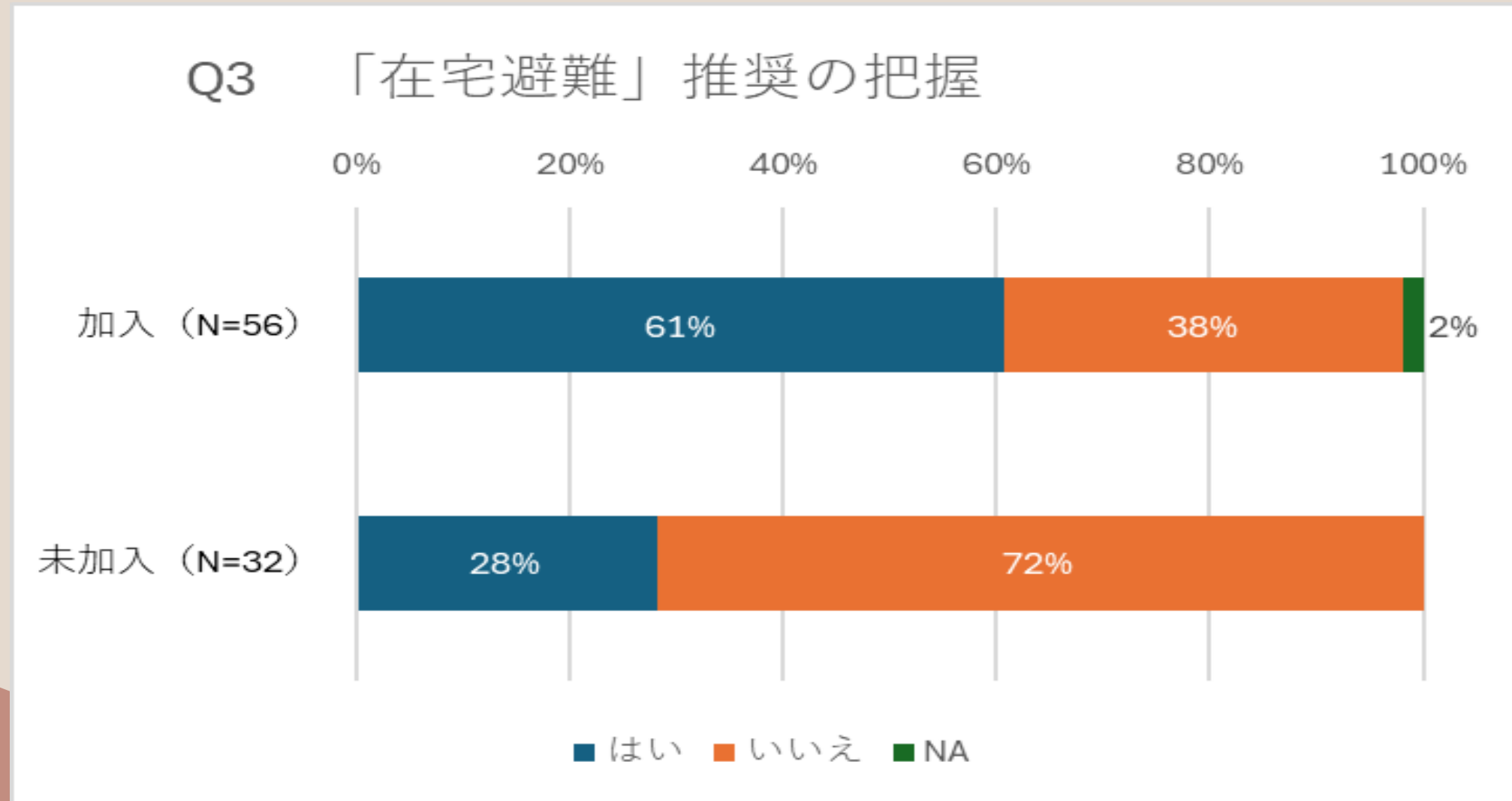
イ.いいえ



Q2 あなたの居住する地域の避難所を把握していますか。
ア.はい イ.いいえ

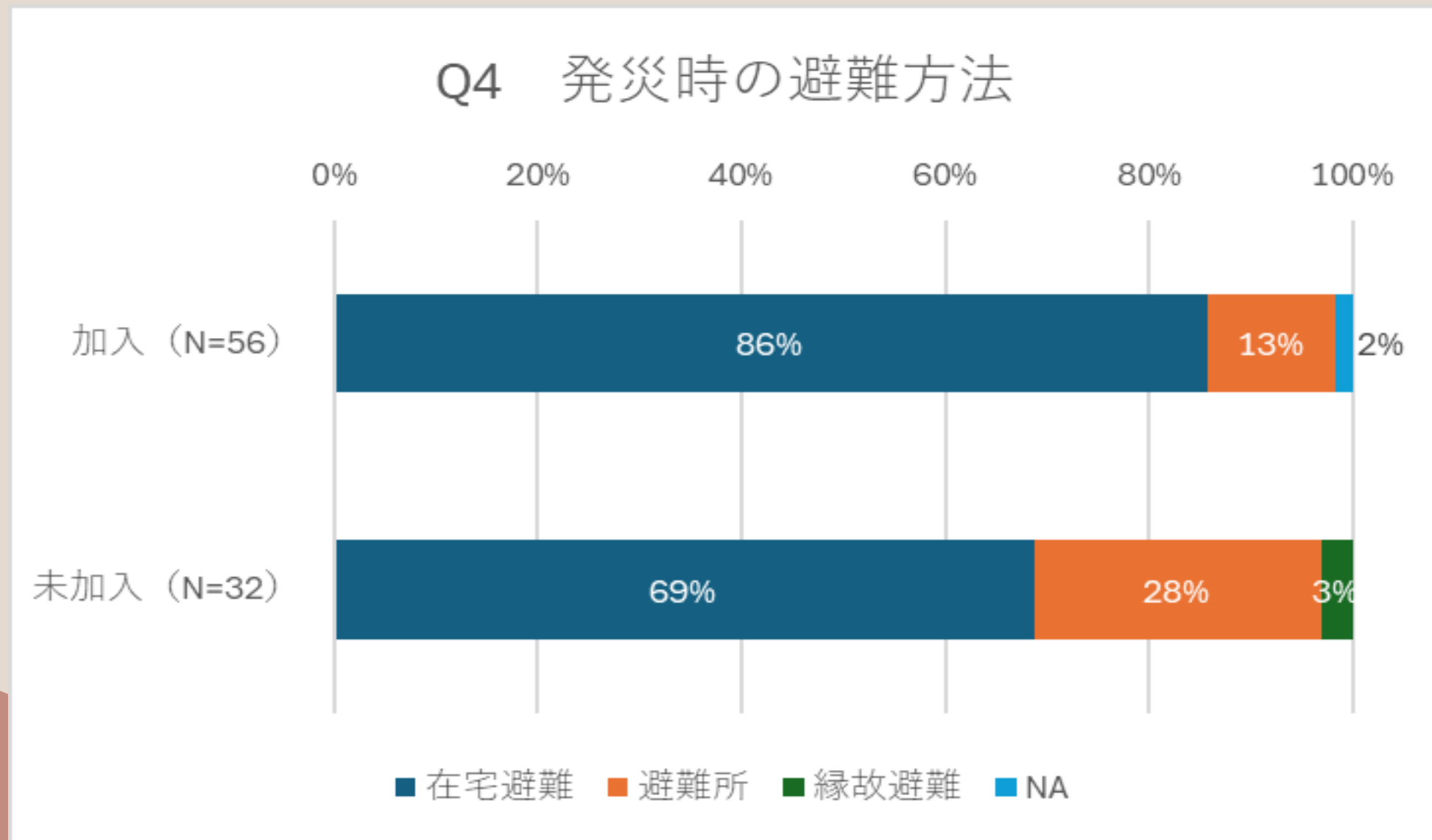


Q3 世田谷区が在宅避難を勧めていることを知っていますか。
ア.はい イ.いいえ



未加入者の認知度が低い！

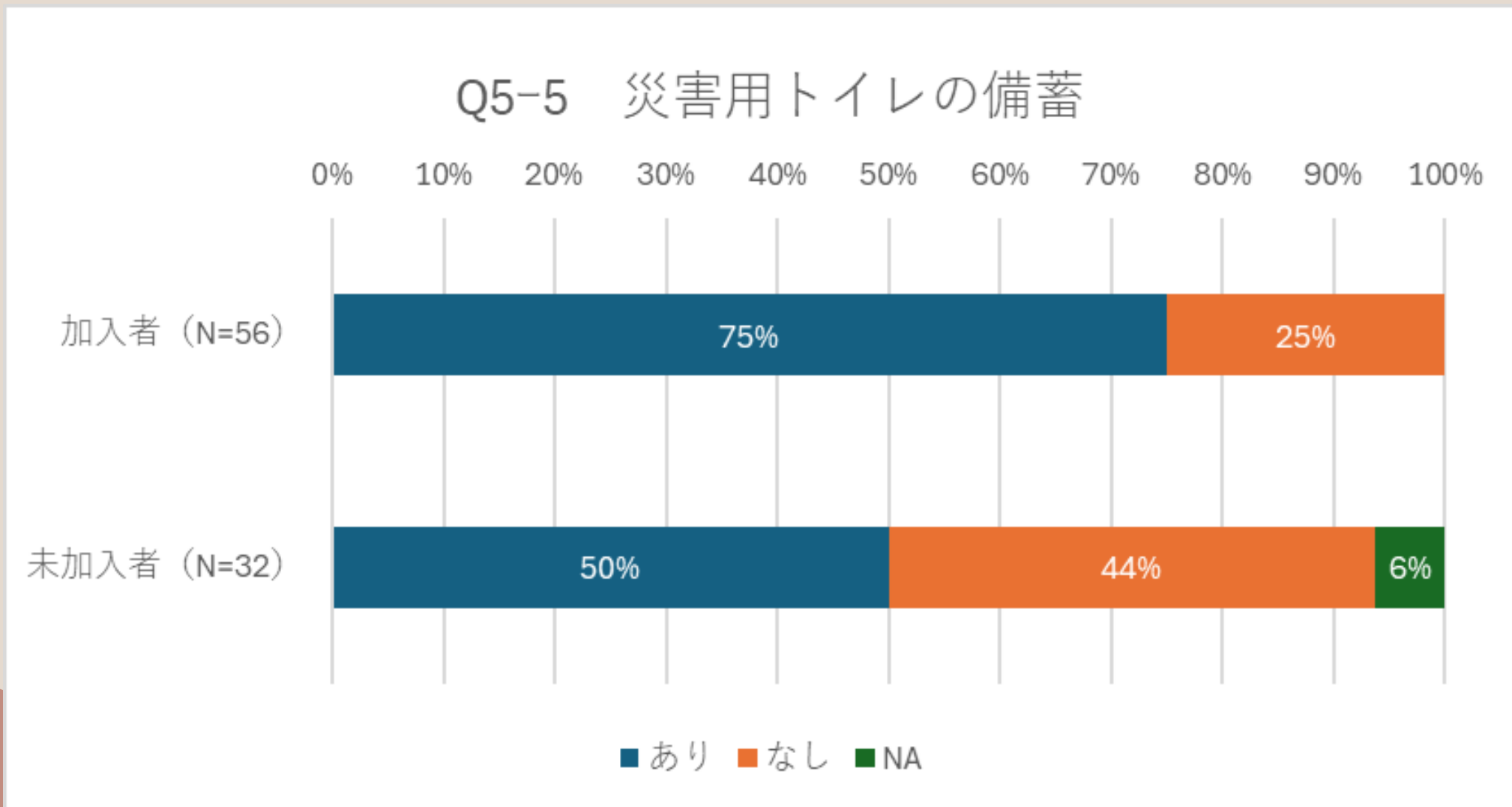
Q4 あなたは発災時にどのような避難を行おうと考えていますか。
ア.在宅避難をする イ.避難所へ避難する ウ.縁故避難をする



Q5 非常用品を自宅に常備していますか。

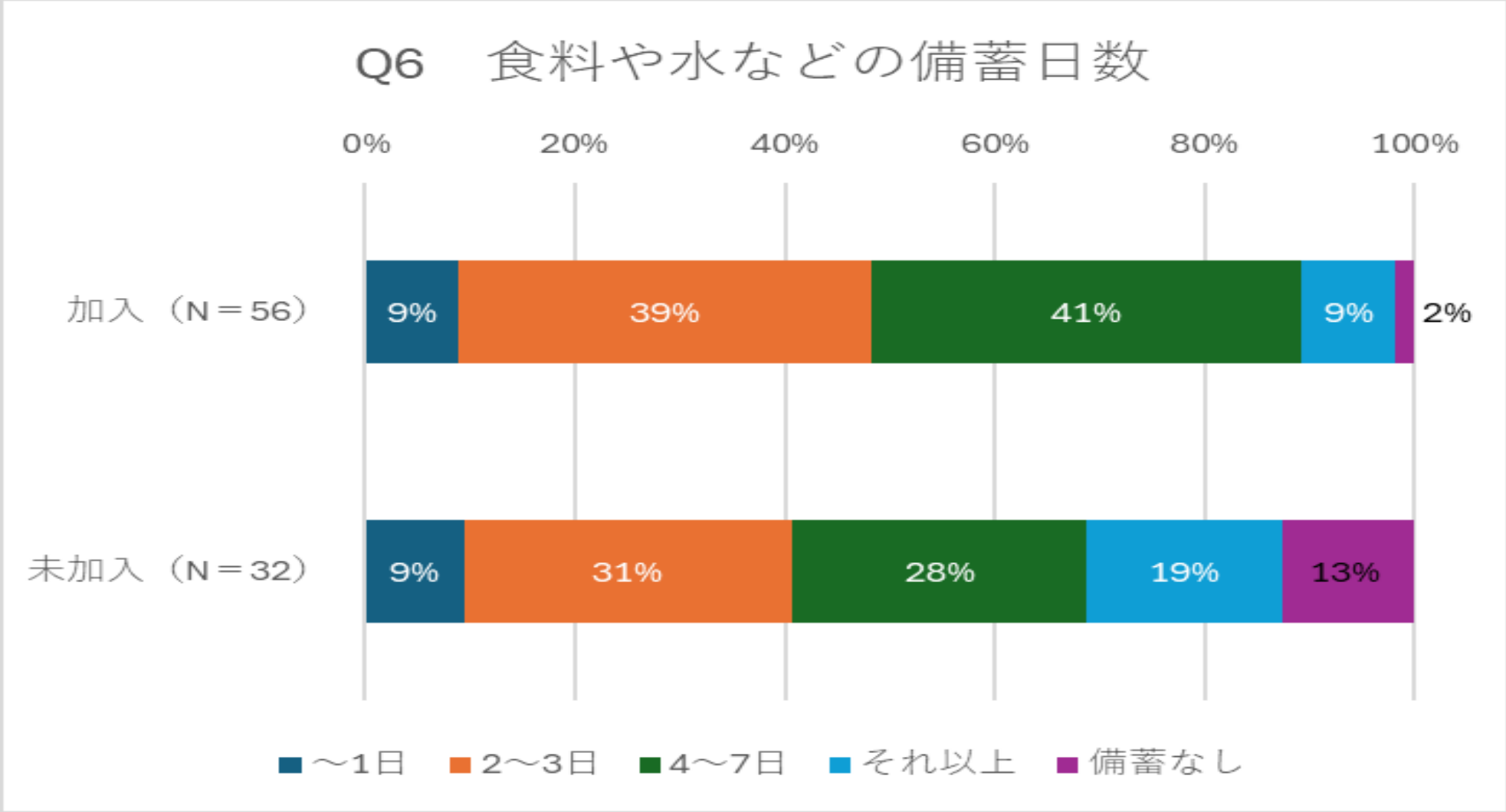
ア.常備している

イ.常備していない



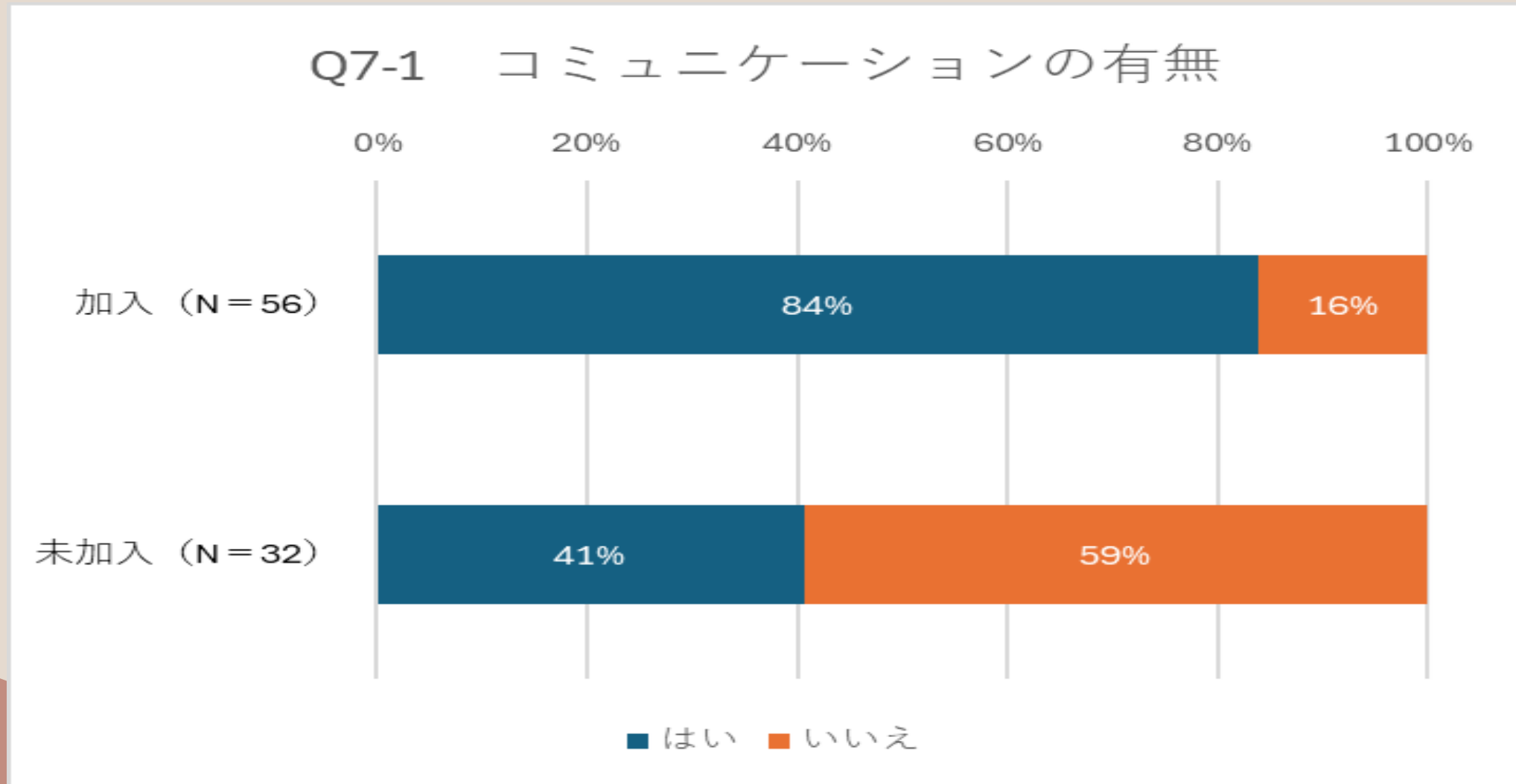
未加入者の災害用トイレの備蓄率が低い！

Q6 食料や水などの消耗品について、何日分ほど備蓄していますか。
ア.~1日分 イ.2~3日分 ウ.4~7日分 エ.それ以上 オ.備蓄なし



加入者の備蓄日数の方が多い傾向にある

Q7-1 普段から近隣とのコミュニケーションはとっていますか。
ア.はい イ.いいえ



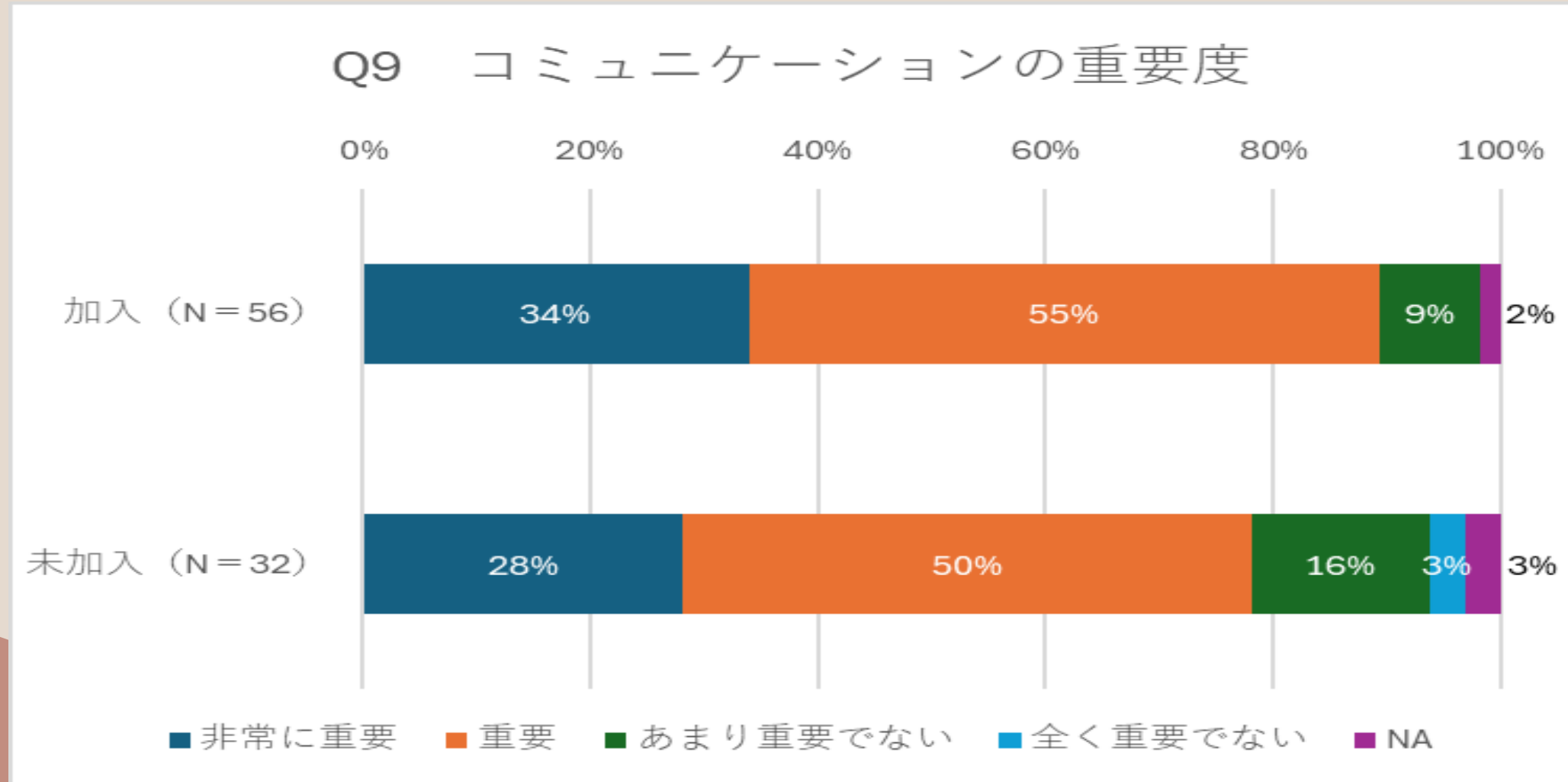
未加入者の**約6割**がとらない傾向にある

ア.他の住民と接点がない イ.付き合わなくても困らない ウ.近所付き合いが煩わしい
エ.プライバシーを保ちたい オ.トラブルに巻き込まれたくない



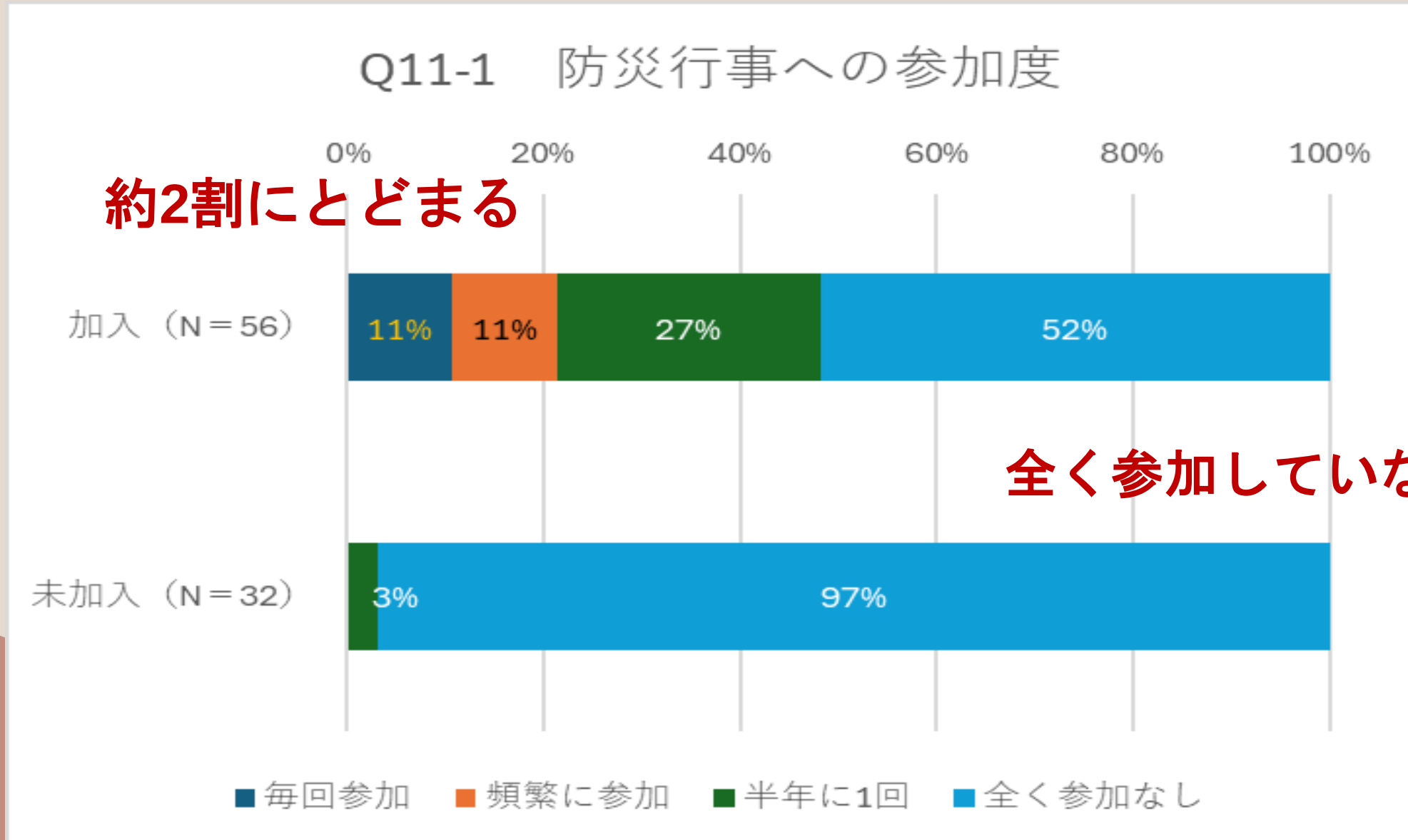
Q9.発災時、あなたにとって平時の近隣とのコミュニケーションはどのくらい重要であると考えますか。

ア.非常に重要 イ.重要 ウ.あまり重要ではない エ.全く重要ではない



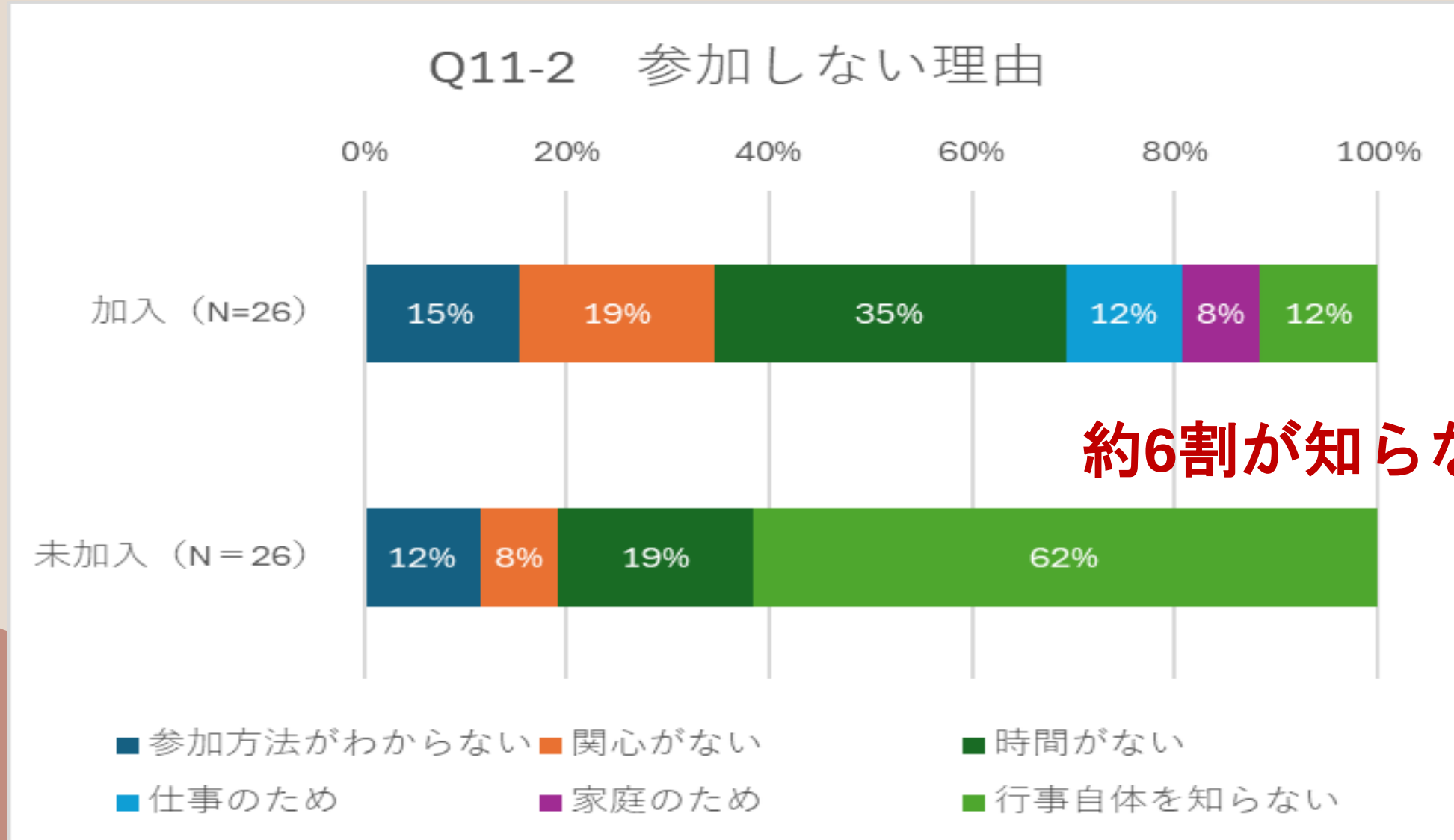
コミュニケーションを**重要**だと考えている！

Q11-1.町会・自治会が主催する防災に関する行事に参加していますか。
ア.毎回参加 イ.頻繁に参加 ウ.あまり参加してない エ.全く参加してない



Q11-2.参加しない理由に最も近いものはどれですか。（前問で不参加と回答）

ア.参加の仕方が分からない イ.関心がない ウ.時間がない エ.仕事のため
オ.家庭のため カ.行っている行事を知らない

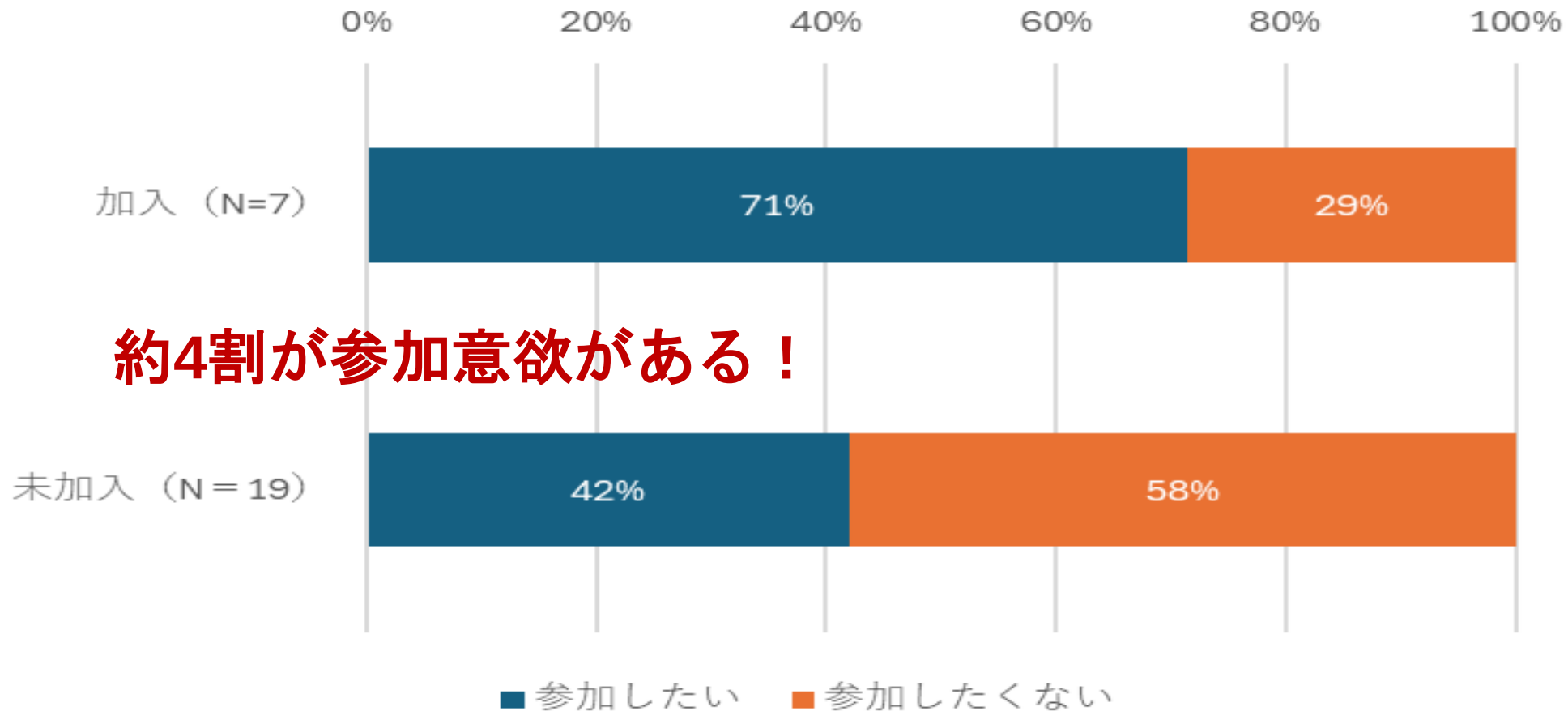


Q11-3.行事の開催や参加方法を知ることが出来れば参加したいですか。
(前問でアまたは力を選んだ方)

ア.はい

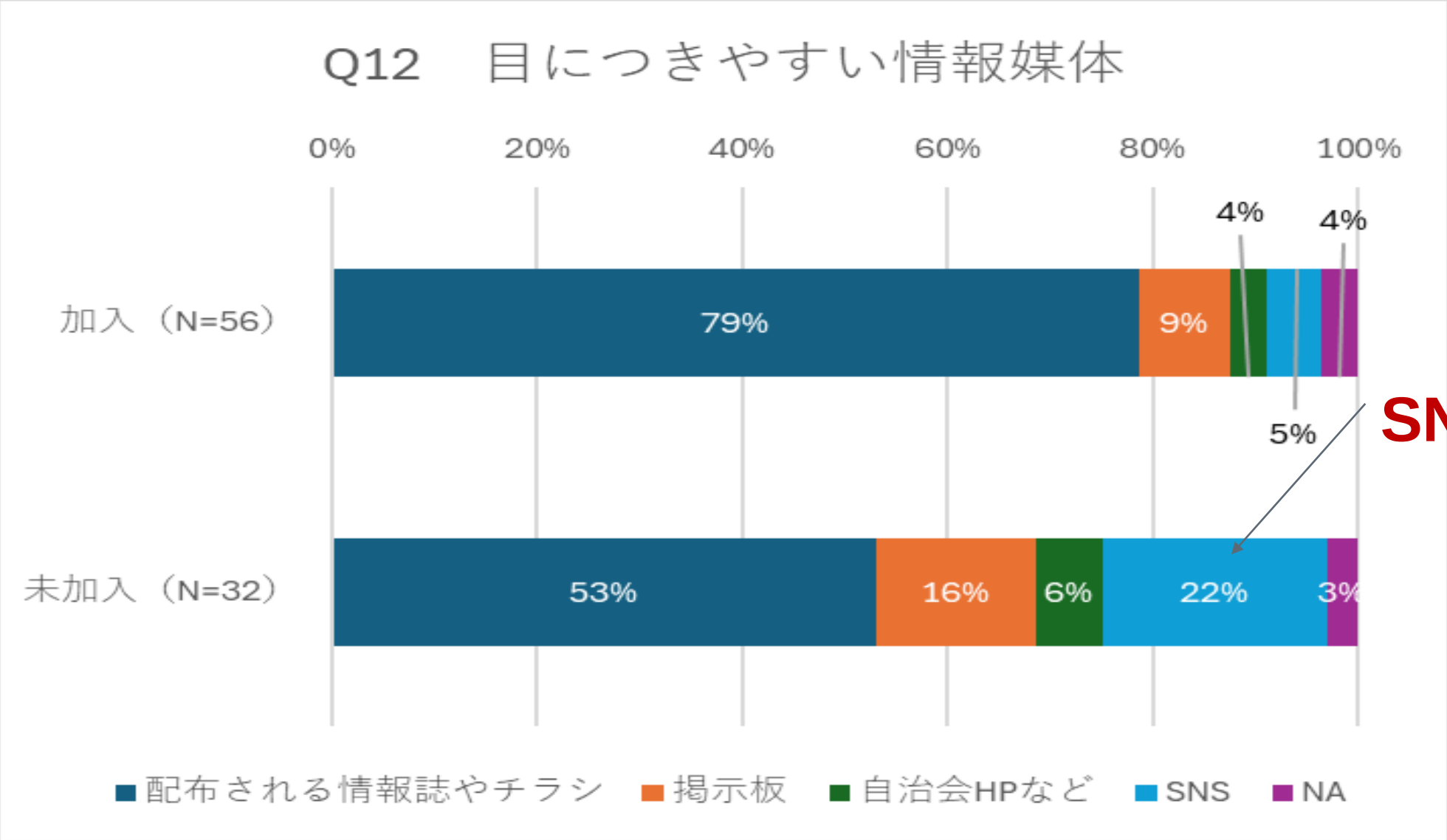
イ.いいえ

Q11-3 参加方法を知った場合での参加意欲



約4割が参加意欲がある！

Q12.どのような媒体での発信が最も目につきやすいと思いますか。
ア.配布される情報誌やチラシ イ.掲示板のポスター ウ.自治会HPなど エ.SNS



SNSが多い！

7. 考察（防災意識に関して）

- ・ハザードマップや避難所などの認知度は、加入者の方が**高い**
- ・加入者と未加入者ともに備蓄している割合の方が多いが、加入者と未加入者の**備蓄率の差が大きい**



- ・加入者の防災意識の方が**高い**
- ・自治会の活動の効果が出ているのではないか

7. 考察（コミュニケーションについて）

- ・ 未加入者の約8割が近隣とのコミュニケーションは**重要である**と回答
- ・ 未加入者の約6割がコミュニケーションをとっていない現状
- ・ とらない住民の約8割が**「他の住民と接点がない」**と回答



接点創出が必要

7. 考察（防災行事について）

- ・参加者は加入者の約2割にとどまる
- ・未加入者は**全く参加していない**現状
- ・加入者の約1割、未加入者の約6割が行事そのものを知らないと回答
- ・その未加入者の回答者のうち約4割が参加をしたいと回答



- ・未加入者にはあまり情報が伝わっていない（情報のギャップ）
- ・より参加者が増える可能性がある

7. 考察（接点創出のための情報発信）

- ・「SNSなどの発信があると助かる」
- ・「区報や子供の学校でも町会の情報はアナウンスされない」
などの意見から



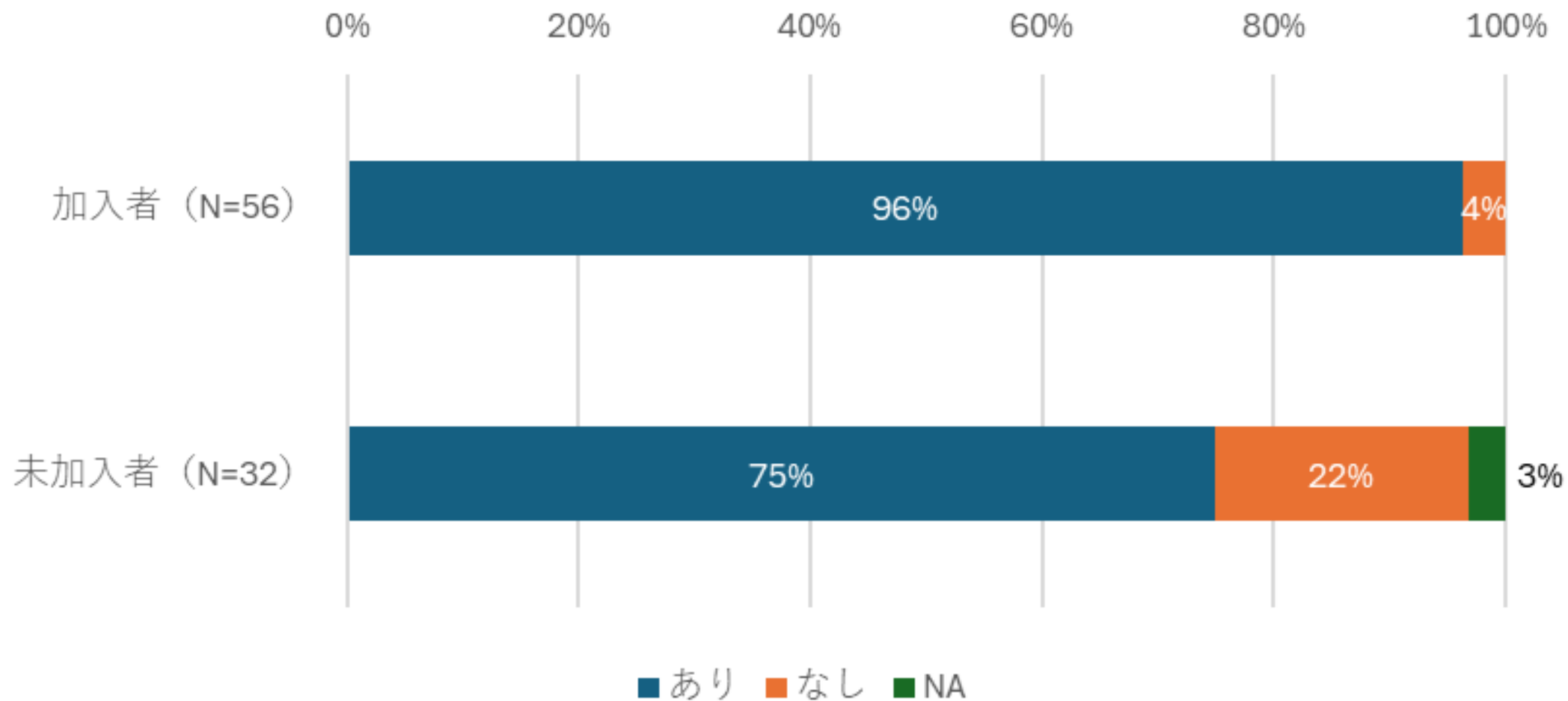
- ・ **SNS**などのデジタルなデバイスでの情報発信方法を取り入れて、従来の方法と両立させながら未加入者へ町会の情報を伝達する
- ・ 小学校における勧誘や行事のチラシの配布を行う

参考文献

- ・ 世田谷区（2021年）「下馬地区防災計画」
<https://www.city.setagaya.lg.jp/documents/679/06.pdf>
- ・ 世田谷区（2024年）「世田谷区の人口と世帯数（町丁目別）」
<https://www.city.setagaya.lg.jp/documents/5203/2024jinko-setai-chocho.csv>
- ・ 特別区長会調査研究機構（2021年）
「地域コミュニティ活性化のためにとりうる方策（葛飾区提案）」 pp.25-33.146-163
<https://www.tokyo23-kuchokai-kiko.jp/report/docs/dad5ffb1a5bd0ddc5982a57fa4fdf90b42eb2326.pdf>
- ・ 東京都生活文化スポーツ局（2024年）「町会・自治会活動に関する調査報告書(概要)」
https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/chiiki_katsudo/chiikiryouku/files/0000002434/gaiyou.pdf
- ・ 内閣府世論調査（2022）「防災に関する世論調査（概略版）」
<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-bousai/gairyaku.pdf>
- ・ 渡辺たま緒（2021）「自治会の維持継続に対する考察と若者による街づくりの連携」
https://www.yafo.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/03/study_r2-5.pdf
- ・ topographic-map.com「世田谷区地形図」
<https://ja-jp.topographic-map.com/map-hjzdt/%E4%B8%96%E7%94%B0%E8%B0%B7%E5%8C%BA/?center=35.66752%2C139.64561&zom=13>（最終閲覧日：2024年10月18日）
- ・ 小田急電鉄株式会社「いちのいち」
<https://ichi-no-ichi.com/>（最終閲覧日：2024年10月18日）

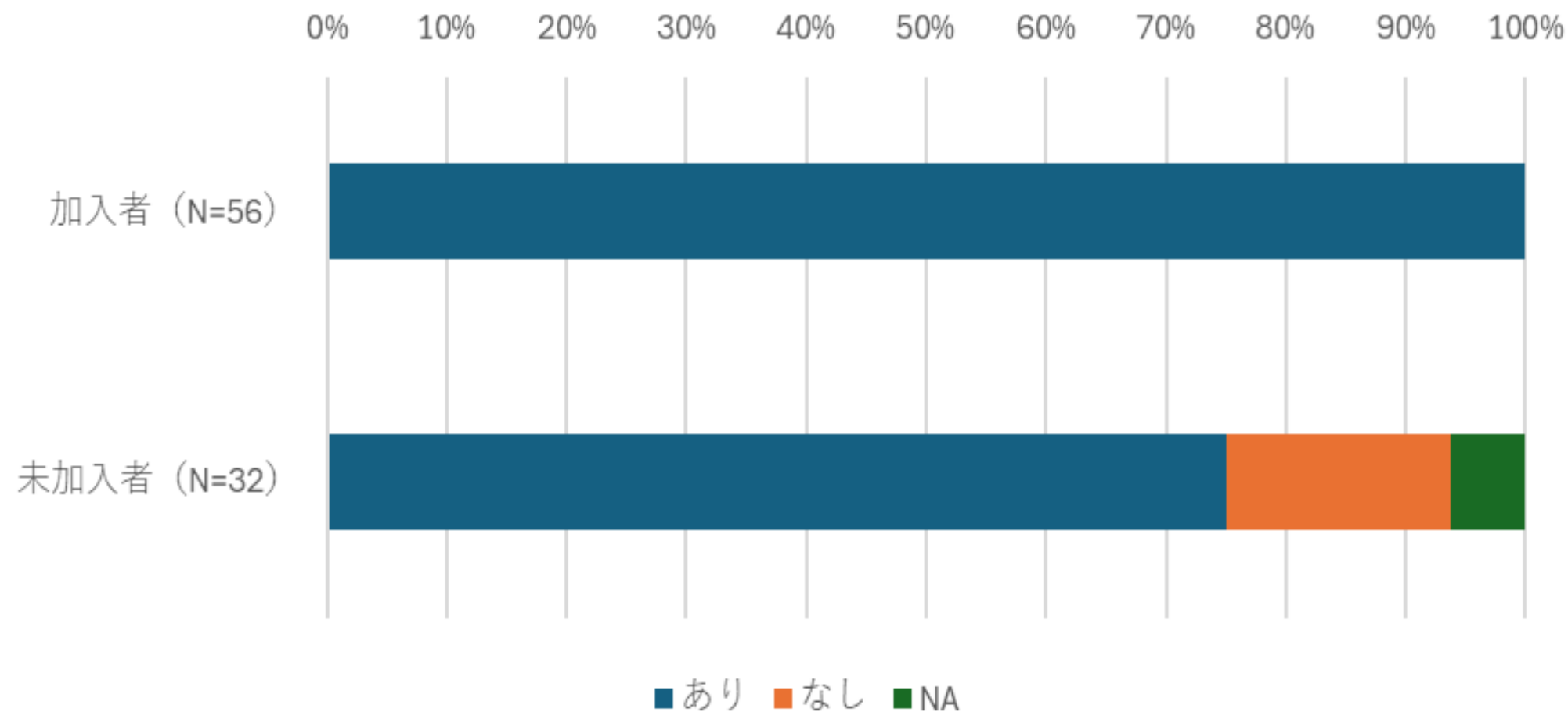
【補足資料】

Q5-1 飲料水・食料の備蓄



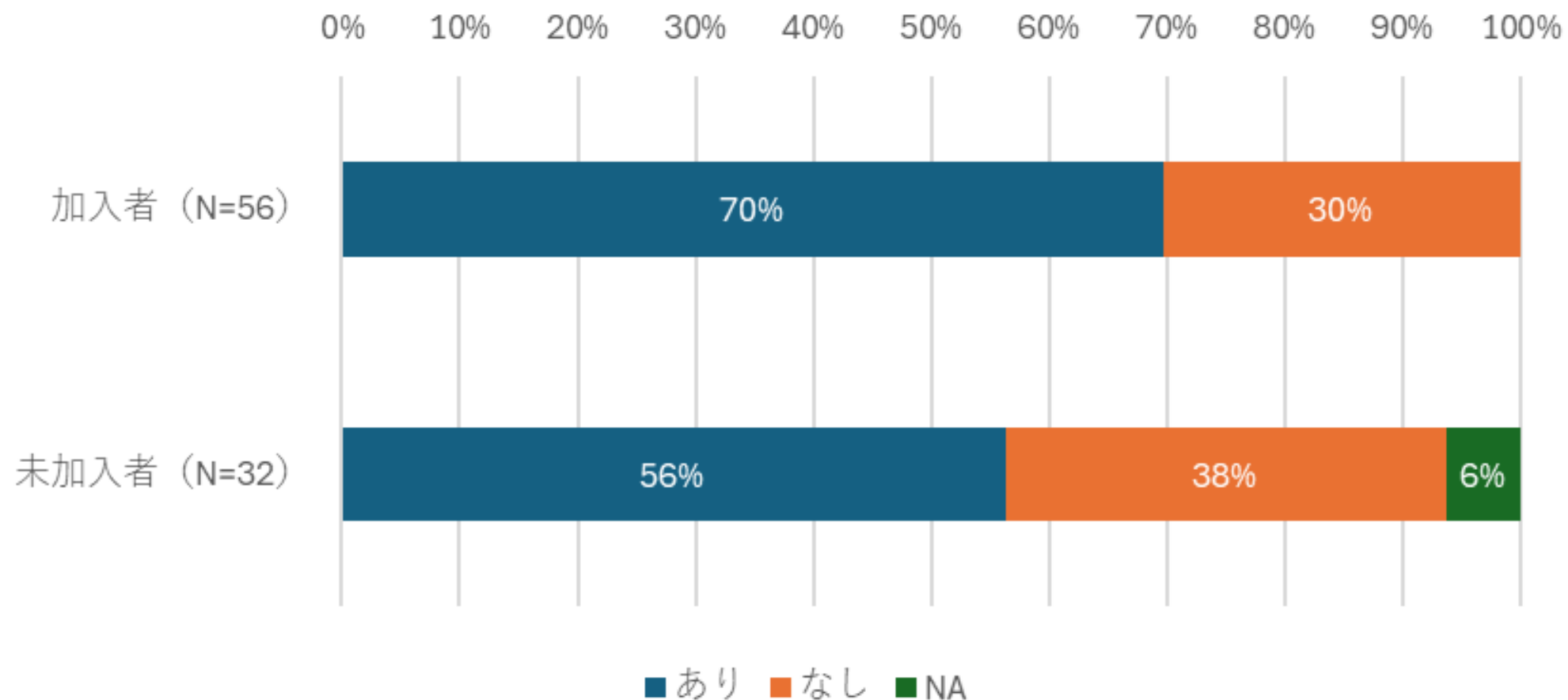
【補足資料】

Q5-2 懐中電灯の備蓄



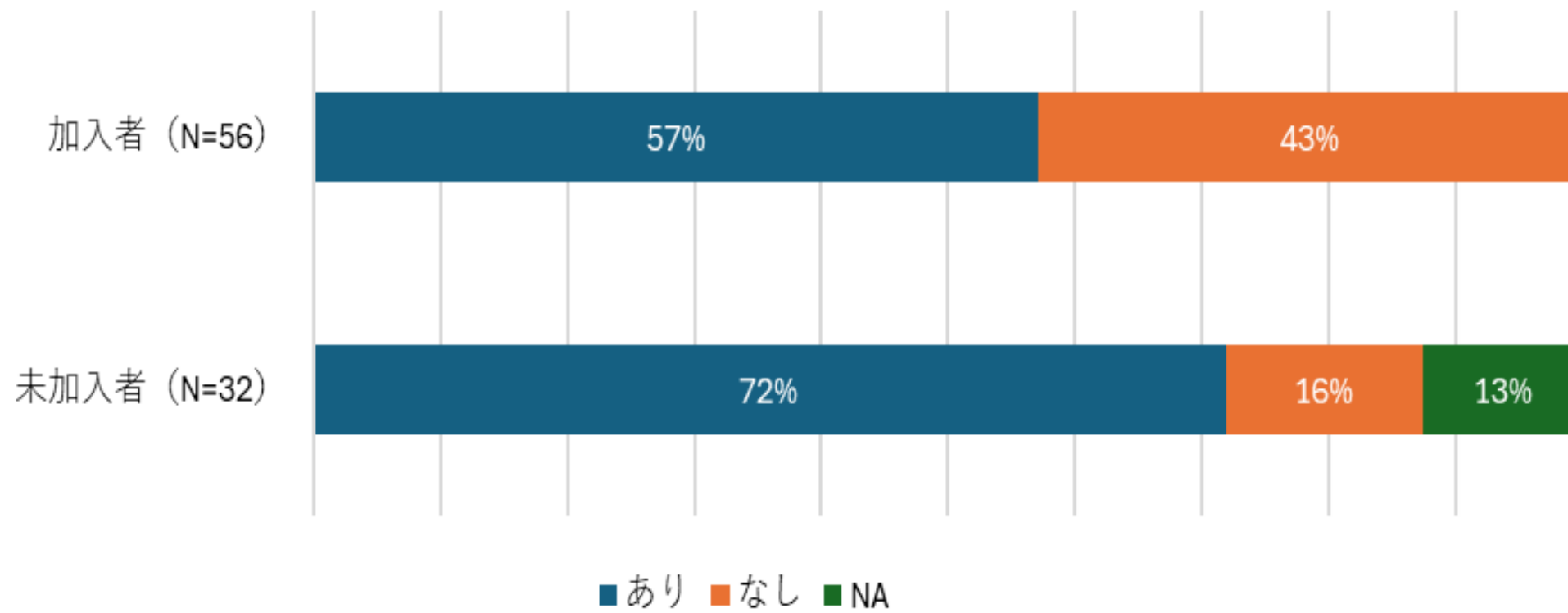
【補足資料】

Q5-3 携帯ラジオの備蓄



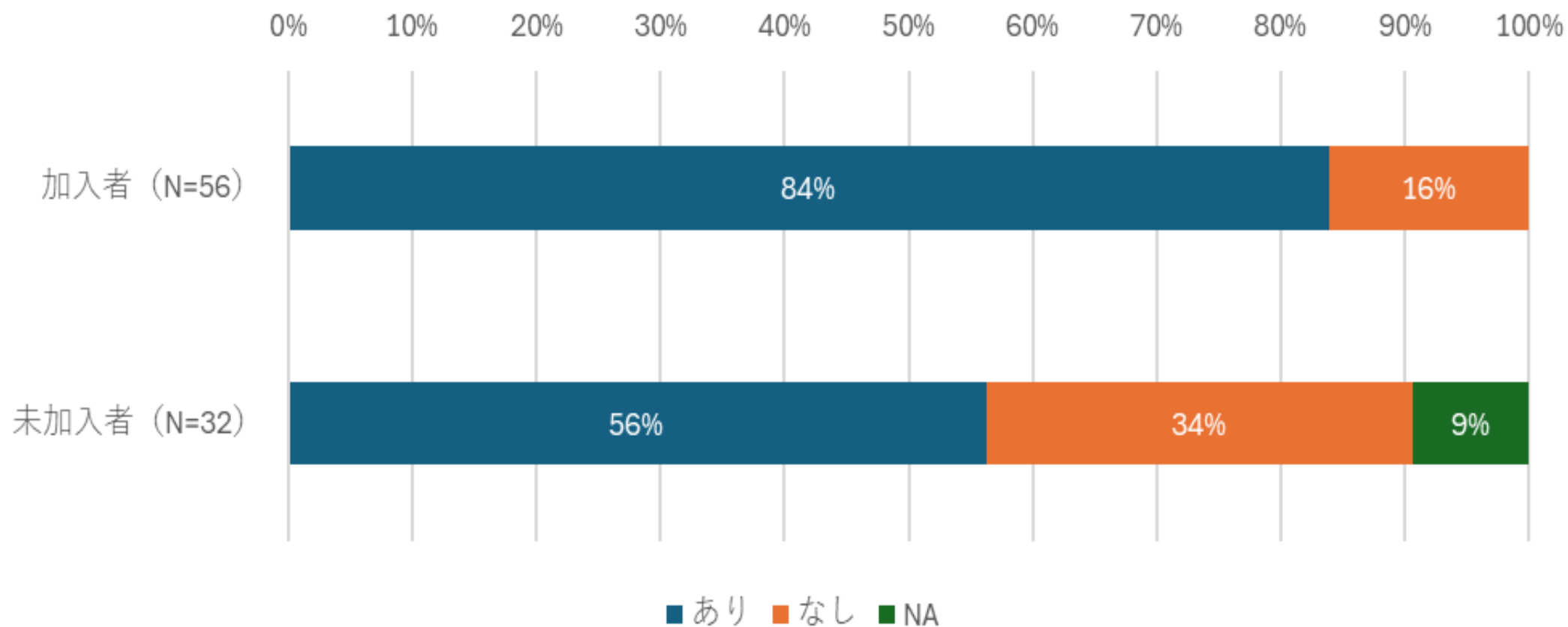
【補足資料】

Q5-4 モバイルバッテリーの備蓄



【補足資料】

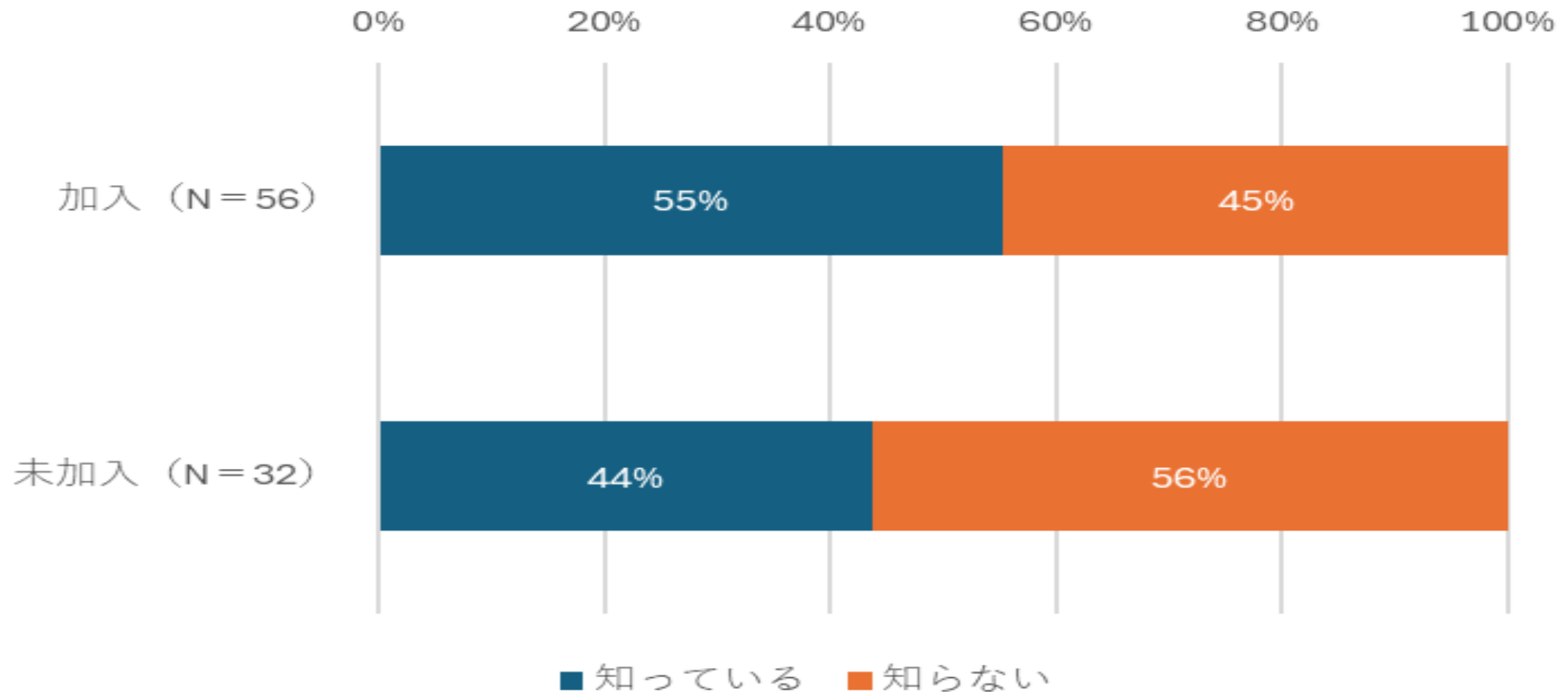
Q5-6 救急医薬品の備蓄



【補足資料】

発災後、水や食料などの救援物資の配給には3日後以降でないと受け取ることができない可能性があることを知っていますか。

Q8 配給に3日かかることの認知



ご清聴ありがとうございました！

アンケートにご協力いただいた下馬地区の
住民の皆様に深く御礼申し上げます。